

アメリカにおける大学の家政教育カリキュラムの比較研究

○古寺 浩(金城学院大短大), 東 珠実(龍谷大学大生活科学), 渥美美晴(關アルバイトタイムス)
 鈴木真由子(新潟大教育), 吉本敏子(三重大教育), 田崎裕美(日本大短大(非))
 増田啓子(常葉学園短大付属環境システム研究所), 村尾勇之(東京家政学院大家政)

【目的】これまで本研究を推し進めるワーキンググループでは、学会誌分析を通してアメリカ家政学研究の歴史的系譜を明らかにしてきた。この間、アメリカ家政学会名称変更に関連して、1995年にアメリカの家政系大学・学部に対してアンケートを実施し、学部名称やカリキュラムの変遷、学会名称変更に対する意識の実態を調査した。その際、ご協力いただいた大学から、調査結果とともに、各大学の入学案内・カタログ・シラバス等を入手した。本報告の目的は、これらの各大学のカリキュラム関連情報を資料として、名称の異なる学部・学科間での家政教育内容を比較するとともに、資格との関連を分析することによって、知的認識活動としての家政学研究の成果が、知的生産活動である教育にどのように結びつき、人材育成を通して、アメリカでの家政学という学問が、どのように社会貢献をしているのかということをも明らかにしようとするものである。

【方法及び資料】①カリキュラム関連資料を入手した大学・学部を、その組織の名称等から、Home Economics系、Human Ecology系、Family & Consumer Sciences系等に分類する。②各大学での開設科目を、日本家政学文献集(第4集)に準じて10の研究領域に分類する。③各学部・学科・コースにおける学位取得要件総単位数(及び時間数)に占める各研究領域に該当する単位数の割合を求める。④教育内容と取得可能な資格(取得に必要な科目単位数)との関係を把握する。⑤組織の名称などから分類した系間の比較をする。

【結果】①分類した系ごとに、特色あるカリキュラム内容が把握されたが、資格関係の内容は、その認定団体との関係から、あまり差異が認められなかった。②どの大学・系においても、資格取得を中心とした家政学専門家育成に力点が置かれていた。